

 緊急企画**我がクラブのコロナ対応****友遊スポーツかみみね
＜佐賀県上峰町＞**

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みについてご紹介いたします。

1 現在のクラブ状況**緊急事態宣言解除後も会員の活動状況は低水準のまま**

友遊スポーツかみみねは、設立10年目を迎え、節目の年を目前にした3月1日から5月19日の活動再開までの間、新型コロナウイルス感染拡大を受け、事業活動を全て停止することになりました。人口9,600人ほどの小さな地方の町で「ヨガ」や「ズンバ」など15種目が楽しめて、毎日町のどこかに行けば飛び込みで「スポーツ」ができる環境を目指し、運営に励んでいた日常が“自粛”に変わった期間でした。

5月の緊急事態宣言解除を受け、佐賀県は知事による緊急会見や素早い対策・対応の提示等があり、町内施設の利用再開に伴う「クラブの事業再開」にあたり、大変助かるガイドラインとなりました。しかしながら、6月になると町内外の利用者が施設使用を許可され、事業が正常に動き出すかと思われましたが、8月現在で会員の活動はいまだ60%に満たない状況です。

当クラブは年間4か月毎3期に区切り事業を展開しており、中途半端な1期のうち2か月間は参加費免除の対策を取ったものの、会員の参加状況は50%にとどまりました。2期目の8月からはイベント等の開催は見合わせていますが、通常事業は運営しています。どれだけの会員の皆さんが参加いただけるか、見通しが立たないのが現状です。

特に、幼児から小学4年生までのACPの教室では、例年の1/3の加入数に減少したため、子どもたちの集中力、体力の低下が大変気がかりです。

迅速・柔軟な県のガイドラインに助けられ、前に進めたクラブ運営

佐賀県は5月5日、新型コロナウイルス感染防止対策に十分に配慮した上で、社会活動の再開についての方針を発表し、緊急事態宣言を受け5月14日に佐賀県としてのガイドラインを配信、さらに5月25日には「SAGA2020 佐賀県高等学校スポーツ大会」の開催を早々に決定しました。

感染者が少ない地方性というのもあるのですが、方針がぶれることなく県内の感染状況や環境面にも配慮して早急かつ柔軟な対応を進めた県の姿勢は、不安要素が多かった私たちにとって心強いメッセージでもありました。県から発信された感染防止対策への取り組みはスピーディーで分かりやすく、全てが再開に向けてのガイドラインになりました。こうした県の対応のおかげで、クラブ運営にあたり“安心、安全”を探りながら前に進む手段を選択できたと思います。

協力依頼したインストラクターは危機管理スキルを保持

教室での指導は外部のインストラクターに依頼しています。今回、感染防止対策を講じての事業再開を受け入れてくれるか不安でした。再開するにあたり、インストラクターに連絡を取ったところ、インストラクターの大半の方は安全をまず考慮し、会場環境、参加人数の削減、プログラム内容の変更等を提案してくれました。

活動再開に伴った対策を取るにあたり、インストラクターや講師の先生方は危機管理意識が高く、方向性を伝え協力依頼するのが容易だったのは幸いでした。日々活動する中で、問題点への取り組みは、今なおインストラクターの方々と一緒に進めています。

ただ、本来は運営側が構築しておかなくてはならない「講師の選定基準」「講師の研修」については、早急に取り組む必要がある課題だと実感しています。

感染防止策を目に見える形で、会員に分かりやすく提示

一方、心配だったのは会場でお世話をさせていただくスタッフの皆さんに危機管理面を含めた重要性が伝わるか否かでした。佐賀弁で「ヨカ、ヨカ」と寛容で曖昧な意味の表現が飛び交いますが、この「ヨカ」が「どうでもいい」といった誤った判断になりかねないのが心配でした。このため、丁寧に文書や絵を活用し、実演指導も含め打ち合わせをするなどして対応しました。同様に会員にも、チラシ、プリント等で感染防止への意識付けができるよう二重三重に準備をしました。会員さんには、できるだけ文書でしっかりと、イラストではっきりと、活動再開の方針や新型コロナウイルス感染防止対策を具体的に分かりやすく示せるよう工夫しました。施設で目にする募集チラシ、手渡しのプリント、受付時の案内、提出する申込書等で会員が意識を共有できるようにと思案し、実行しました。

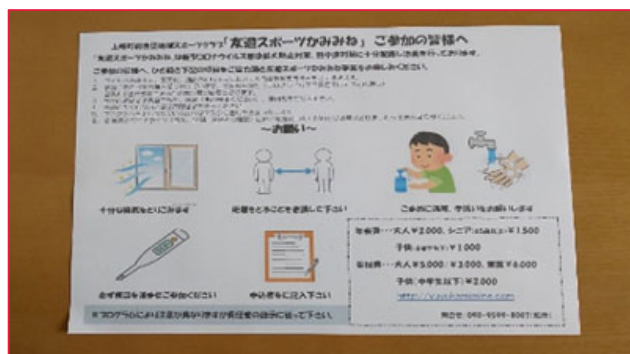
現在整備中(タイミング悪く)のHP、SNSの活用も急ぎ、活動発信につなげたいと考えております。

スタッフによる各種防止手作業は謝金対象に

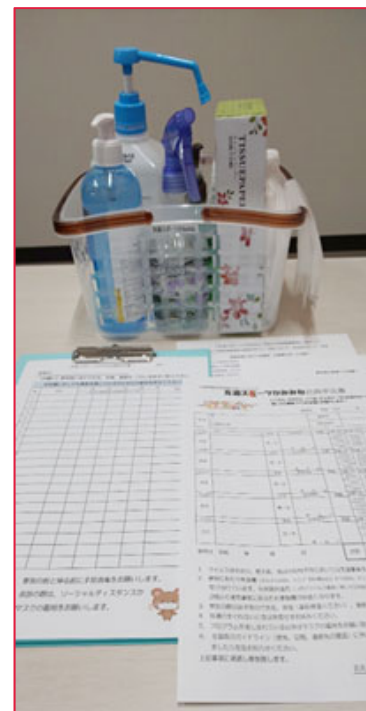
3月初めに新年度事業開始に向けアルコール消毒液、次亜塩素酸水、ハンドソープをある程度の量を購入していましたので、全ての事業で配布・配置ができました。ただ、その時点で体温計は購入が困難でしたので、事業再開時には自身での事前検温をお願いしました。開始前の煩雑な準備や手配、施設使用後の用具や施設の消毒作業に関しては、スタッフの謝金対象とすることで継続できています。

感染防止対策はもとより、猛暑の夏への対応として毎年熱中症対策講習会を実施しているため、会場スタッフの蓄えた知識を信じ、感染防止と熱中症対策の双方に備えています。

今回のコロナ禍対応で得た教訓ですが、クラブ内での迅速な情報共有に関し、もっと工夫が必要だと実感いたしました。



会場では目に届くよう設置し、全会員に配布



各会場担当者が持参している一式

予防対策への取り組みが他クラブに紹介され、高まったモチベーション

【対策実施後の反響】

参加いただく会員の皆様には、既にメディア等を通して感染を予防する手段としての情報が行き届いているため、クラブ内での対策の手間暇に異論は無く、自然と浸透しました。

活動再開当時、すぐに県クラブアドバイザーさんが訪問してこられました。当クラブでの感染予防対策を迅速に県内の各クラブに配信していただき、その後行われた会議等でも紹介されました。

活動再開に向け準備中の、あるいは再開を躊躇(ちゅうちょ)されているクラブからすぐに問合せをいただき、ますます“安全、安心”を提案することに意識が高まるという相乗効果が生まれました。

自分たちだけでは、大した効果も結果も求められませんが、連携・協働することで大きな力が生み出せると改めて思い知ることの多い日々です。当クラブの感染防止対策の取り組みを県内の他クラブにも紹介させていただき、「参考になった。そのまま活用した」との声が寄せられるなど、感染防止対策取り組みへのモチベーションは高まるばかりです。

課題は、感染に対し恐怖を感じ、いまだ自粛を選択されている半数近い会員の皆様にどうアプローチをしていくかです。対策を講じ、どのような形でクラブが地域の皆様に健康と元気を提案できるか、テーマは尽きません。

大きな支えとなった県クラブアドバイザーの存在

【対策実施後の事務局側の声】

国内、県内での感染状況を踏まえ、もっと慎重であるべきとの意見は消えません。慎重論をいただくからこそ、クラブ運営に関わる側としては、万全な対策に気が抜けず、できる限りの努力を続けていきたいと考えます。

自粛の中、気にかけて頻繁に連絡くださった県クラブアドバイザーの存在は大きく、メールの中には当時の悶々(もんもん)とした思いや言葉がつづられており、クラブにとって確かな大きな支えでした。

今後の感染防止対策で4つのクラブモットー

- 感染防止対策を十分に配慮した上で、年間事業に対しては“当たり前”に実施する環境を整える。
- 不安なまま“自粛”を続ける多くの住民の皆様に対し、安心して参加できるオンラインでの配信や新たなプログラム提供にチャレンジできるよう人材をそろえる。
- 危機管理にあたっては柔軟さと見極める判断力を備える。
- 何より“スポーツの持つ力”を提案できるクラブであり続けるよう、スタッフ一同が健康で元気であること。

再会時の子どものような無邪気な姿忘れず、課題に取り組む

今なお続く新型コロナ禍の状況は、「健康について」「スポーツについて」「クラブ事業の運営について」立ち止まり、再認識する機会を与えてくれました。活動再開の日、体育館に集まった会員の皆さんのほじけた笑顔と喜びの足取り、まるで子どものような無邪気な様子が忘れられません。

先日、地元中学校の体育大会を見学する機会がありました。多くの制約の中、「達成」というにはほど遠い不十分な練習準備期間、決して納得はしていないであろう会場で、「今」に励み楽しむ子どもたちの姿があり、サポートに尽力する学校の姿勢があり、応援を制限された保護者が心遣いを持って見守る姿がありました。ここに「スポーツの持つ力」の原点を見せられたようで、心が揺さぶられました。地方の小さなスポーツ環境ですが、これからも地域の皆様とともに成長したいと思っております。

課題は山積みですが、そう遠くない、「スポーツ」に携わる多様で多世代の皆様と何の制約もなくお会いできる日を目指し、今できる日常に取り組んでまいります。

(友遊スポーツかみみね クラブアドバイザー 松井 結華)



換気を取り、冷房をきかせフェイスシールドを装着しての参加の様子



講師の先生はマスク着用。ソーシャルディスタンスを取りながら「KODOMOダンス教室」の様子

クラブ プロフィール

設立年月日 平成23年2月1日

所在地 佐賀県上峰町坊所319-4

特 徴 人口9,600人ほどの小さな町。10年前に町民の健康をテーマとした6種目でクラブを設立しました。現在、町の大きな理解と支援を受け15種目、年間500回を超える教室事業を実施しています。障がい者スポーツや部活動の受け皿、住民の運動習慣向上の提案と課題は尽きません。

連絡先 〒849-013 佐賀県三養基郡上峰町坊所3093-4

TEL 090-9599-8007 FAX 0952-53-6061

URL <http://yuyukamimine.com>

E-Mail matchmama2-8@outlook.com